



豊後大野市立緒方中学校学校だより

青雲の大志

令和6年2月19日

NO.3 | 文責 校長 内海真理子

【学校教育目標】 自他を尊重し、論理的な思考力と豊かな表現力で、粘り強く課題解決を図る生徒の育成



能楽体験教室 一観て・謡って・舞って一

2月13日、喜多流能楽師の渡辺康喜さん、狩野祐一さん、地元の足立豊彦さんをお迎えし、1、2年生を対象に能楽教室を開催しました。

能「高砂」より「千秋楽」を口承で教えていただき、全員で謡ったり、舞の基本姿勢・基本動作を教えていただき、代表者がステージで舞ってみたり、と貴重な体験ができました。最後は「平家物語」の中の緒方三郎惟栄のエピソードを足立友子先生に解説していただいた後、惟栄とゆかりのある平清経の最期を題材にした「清経」のクライマックスを舞っていただき鑑賞しました。以下、生徒の感想を紹介します。

私は、今回学んだことを通じて、能楽がどれほど楽しいかや現在抱えている問題について、分かりました。今まで日本史を学ぶときや古典を学ぶとき、いつこの知識を使うのかをあまり理解していませんでしたが、今日、講師の皆さんの能を観て、何も知らないよりは、多少知識があった方が、十倍、百倍楽しめるんだと気付きました。そんな知れば知るほど面白くなる能も受け継ぐ人が減っているということを知り、せめて将来、どこかで能を観たり、何か手伝えたらいいなと思います。(2年 渡辺 百香さん)

私は物語が好きで、古典なども読むのですが、それに関わりのある能については、よく知りませんでした。だから能について学べたり体験できたりして、よい機会になったと思います。清経が心優しい方だということは知っていたけれど、亡くなるシーンは知らなかったので能を観られてよかったなと思いました。私は、「敦盛」の物語が好きで、特に首を取られるときの覚悟が好きなので、能を観てみたいです。また、面の表情などにも注目して観てみたいです。

(2年 阿南 莉緒さん)

これまで能楽について深く考える機会がなく、今回初めて体験しました。舞台上上がって体験するのは、緊張したし恥ずかしかったけれど、人生に二度とない体験をさせてもらったことに深く感謝したいです。

私が心に残ったのは「清経」の話です。物語の内容はもちろんのこと、その儚く切ない最期を巧みに表現した能のすごみにもとても感動しました。能の奥深さを知れば知るほど、かつての日本文化からはかけ離れた今の文化との違いを感じて、複雑な気持ちになりました。今、能の後継者が減って、能が存続の危機に陥っているのは、すごくもったいないことだと思うので、今回の体験学習を通して学んだことを、これからどんなふう活かせるか考えたいと思いました。また、能だけでなく、もっと色々な日本の昔ながらの文化に親しんで、いろんな人に発信していきたいです。(2年 嘉藤 花さん)

